

Title	国際的技術標準戦略と展開((ホットイシュー) 国際的技術標準戦略と研究開発 (1), 第20回年次学術大会講演要旨集II)
Author(s)	旭岡, 勝義
Citation	年次学術大会講演要旨集, 20: 766-769
Issue Date	2005-10-22
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/6232
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般論文

○旭岡勝義（社会インフラ研究センター）

はじめに

1. 国際標準化戦略のプロセスと構造
2. 国際標準化を決定するための条件
3. 国際標準化プロセス
4. 展開戦略

最後に

はじめに

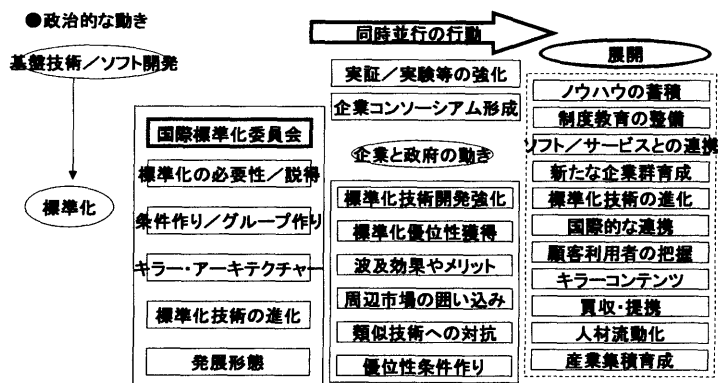
国際標準化戦略は、それほど真新しい課題ではない。しかし、国際的な競争に打ち勝つためには、ますます国際標準を戦略的に展開することが重要になっている。

国際標準化戦略は、単に部品や製品の規格等の標準化のみではなく、新しいソフトやアーキテクチャー等商品やシステムの国際展開や戦略の推進に重要な要素を握ることになる。こうした重要な国際標準化戦略を我が国が有利に展開するためには、いくつかの場面で意識的な展開が必要であり、トップ経営戦略としての位置づけの明確化や推進人材開発等成功の要素やプロセスを強化していくことが重要なのである。

1. 国際標準化戦略のプロセスと構造

国際標準化のためのプロセスを見ると、標準化委員会等での展開と同時にいかに

国際標準化戦略のプロセスと構造



標準化の対象を、優位性の基盤を確立することが重要になってくる。

2. 国際標準化を決定するための条件

基本的には、

- 1) 標準化すべき戦略的な狙いの定め
- 2) 標準化するメリットの明確化等の展開シナリオ
- 3) 標準化のための手順
- 4) 標準化のための仲間作り
- 5) 標準化委員会等での根回し
- 6) 標準化の将来展望

等の明確な計画作り

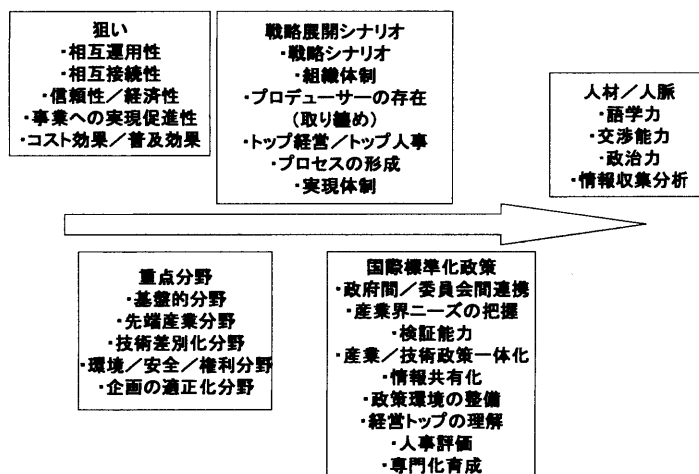
さらに

展開するためには

- 1) 仲間や委員会とその工作
- 2) 説得能力
- 3) 投資や資源配分
- 4) 人材の投入（国際会議等での人材開発）
- 4) 国際標準化政策の重点事項

等 多くの条件をクリアーする必要があるが、これらの事項を協力の行うネットワークを形成して、支援体制や推進体制が確立できるような基盤を強化することである。

国際標準化を決定するための条件



3. 国際標準化プロセス

国際標準化のプロセスは、

1) 基本的認識

事業の位置付け（国際標準化する戦略的な意味の経営上での位置付け）

経営課題の把握（国際標準化のための経営課題の把握）

2) 事業戦略の策定

事業の範囲と戦略展開（国際標準化対象事業の事業戦略の策定とトップ合意）

標準化の狙い（標準化までの具体的なプロセスや成果の意味）

3) 開発項目の推進と優位性獲得

開発推進とレベルの判断（開発推進の方法と開発する事項のレベル）

優位性評価と獲得条件（開発の優位性の評価と優位性の獲得条件の理解）

等を先ず経営戦略としての合意を得る。

その上で、

4) 標準化の狙いと獲得を明確にし、

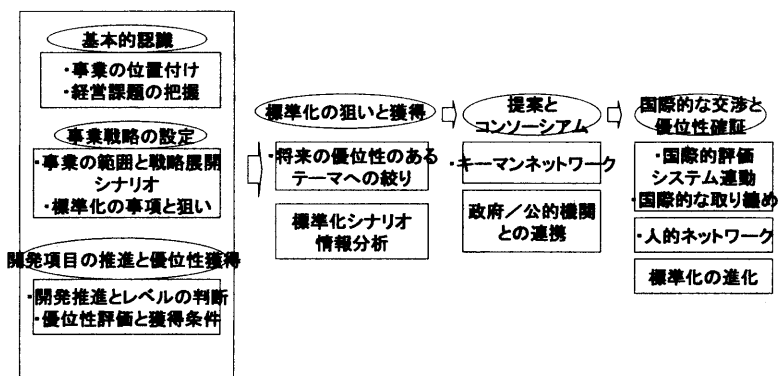
5) 提案とネットワーク化をキーマンを核に強化し、

6) 交渉や優位性の確証を持続する事になる。

これらを企業の戦略的なプロセスとして、経営トップ事項に位置づけ、推進するキーマンとなるべき人材（技術や経営戦略及び経営トップの信頼性）を設定し、支援体制を強化することが重要である。

全プロセスに於ける戦略事項の抽出

●企業として戦略的な動き



4. 展開戦略

展開戦略での重要点は、

1) 戦略／狙い

- ・製品システムの重要要素の見極め（芽の付け所）
- ・新しいインフラを形成する可能性と効果
- ・国際標準化の対象の将来像の予測

2) 戦略策定

- ・特に展開プロセスの予測や競合分析（競合の情報分析）

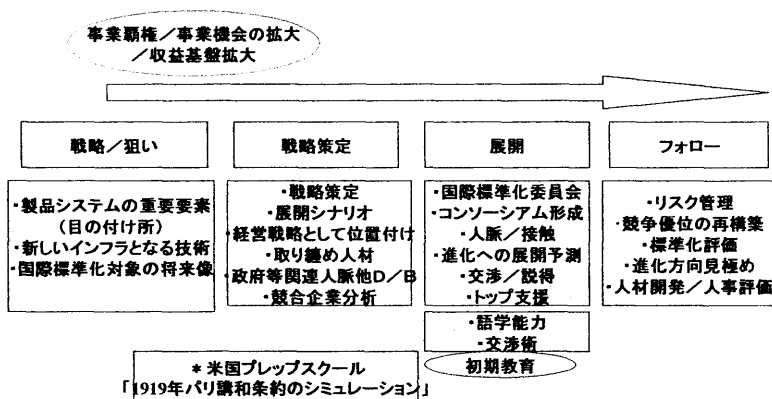
3) 展開

- ・人脈や仲間意識による支援ネットワークの形成強化

4) フォロー

- ・リスク管理及び競争優位の再構築

国際標準化に対応する 今後の戦略の重要点



最後に

今後の国際標準化戦略は、先行する機能部品や機能製品及び知能ソフトやシステムアーキテクチャーの競争が激化する。

そこでは、高付加価値や広範囲な事業モデルを可能にする範囲での特許（複数特許）で固める社会インフラを長期に構成することができる標準化の方向である。

このためには、「技術コンセプト」を確立できる能力と目利き能力による戦略パートナー連携を世界的な人脈の中で展開することになる。

その育成のためには、日本の技術的な視野では不足し、また基本的なスキル習得を素早く解決していくことが緊急である。